1. 令和7年4月～6月期の景気動向

今期のDI平均値は△38ポイント。製造業は11ポイント、卸売業は23ポイント、小売業は8ポイント、サービス業は32ポイント上がったが、建設業は12ポイント下がった。前期の1～3月の△50．4ポイントから12．4ポイントプラスとなった。

業種 / 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△ 31 (△ 38)	△ 56 (△ 50)	△ 29 (△ 34)	△ 29 (△ 46)	△ 56 (△ 67)	△ 22 (△ 11)	△ 23 (△ 19)	△ 27 (△ 23)	△ 61 (△ 61)	△ 61 (△ 28)
採算		△ 38 (△ 44)	△ 38 (△ 56)	△ 34 (△ 37)	△ 27 (△ 43)	△ 33 (△ 56)	△ 11 (△ 22)	△ 30 (△ 40)	△ 26 (△ 40)	△ 44 (△ 61)	△ 31 (△ 50)
資金繰り		△ 25 (△ 19)	△ 38 (△ 31)	△ 22 (△ 33)	△ 15 (△ 23)	△ 22 (33)	△ 22 (△ 44)	△ 28 (△ 27)	△ 24 (△ 31)	△ 29 (△ 41)	△ 29 (△ 35)
業況		△ 56 (△ 44)	△ 56 (△ 50)	△ 34 (△ 45)	△ 22 (△ 45)	△ 33 (△ 56)	△ 22 (△ 56)	△ 32 (△ 40)	△ 38 (△ 44)	△ 35 (△ 67)	△ 35 (△ 50)
経営上の当面する問題点	1位	材料価格の上昇		需要の停滞		仕入単価の上昇		仕入単価の上昇		需要の停滞	
	2位	官公需要の停滞		原材料価格の上昇		需要の停滞		消費者ニーズの変化への対応		材料等仕入単価の上昇	
	3位	民間需要の停滞		製品ニーズの変化への対応		従業員の確保難		需要の停滞		人件費以外の経費の増加	
業種別コメント		建設業は官公・民間いずれも長期にわたる需要の停滞が影響し、DI値が前回調査から12ポイント悪化の△56ポイントであった。継続している材料価格の上昇については建設価格への転嫁が進み、売上高は7ポイント、採算は6ポイント改善したものの、資金繰りは6ポイント、業況は12ポイント悪化した。来期は引き続き官公・民間需要の停滞が懸念され、依然として厳しい状況が予想される。		製造業はDI値が△34ポイントと前回調査から11ポイント改善された。依然として「需要の停滞」「原材料価格の上昇」は継続しているものの、全項目で改善が見られた。来期は売上高は需要の停滞から横ばいが予想されるが、生産コストの価格転嫁や資金繰りの改善により業況の回復が期待される。		卸売業はDI値が△33ポイントと前回調査から23ポイントの大幅な改善が見られた。「需要の停滞」は継続しているものの、「仕入単価の上昇」については販売価格への転嫁が進んだ。また、深刻な経営課題として「従業員の確保難」が挙げられている。来期は季節需要もあり、売上高の大幅な回復が期待され、採算・業況の好転が期待されている。		小売業のDI値は△32ポイントと前回調査から8ポイント改善された。「仕入単価の上昇」は販売価格に転嫁が進んだことで採算・業況については改善が見られたものの、「消費者ニーズの変化への対応」や「需要の停滞」により売上高が悪化し、資金繰りは伸び悩んでいる。来期についても需要の停滞により売上高・業況面において状況の悪化が懸念されるが、採算・資金繰りについては好転が期待されている。		サービス業のDI値は前回調査から32ポイントの大幅な改善が見られ、△35ポイントであった。「需要の停滞」により売上高は横ばいであったが、「材料等仕入単価の上昇」や「人件費以外の経費の増加」について販売価格への転嫁が進み、採算・資金繰り・業況は大幅に改善した。来期は季節需要の期待が薄く、売上高は横ばいが予想されるが、採算については回復が期待されている。	



とくに好調 (50≦DI) ／ 好調 (25≦DI<50) ／ まあまあ (0≦DI<25) ／ 不振 (△25≦DI<0) ／ きわめて不振 (DI<△25)

※当所では分析にあたってD･I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※( )は前回調査時のD･I値